



解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。折りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2025. 5月第678号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

「詩編104編は、キリスト教の歴史の始まり以来、伝統的にペンテコステにおいて用いられる詩編である」(『現代聖書註解』J・L・メイズ)。神の創造の業を全編にわたって語り尽くすこの詩編が、なぜ聖霊の降臨を祝うペンテコステの日に読まれるのか。その鍵は、30節の言葉——「あなたはご自分の息を送って彼らを創造し、地の面を新たにされる」(詩104:30)——にある。

すなわち、ペンテコステの日に弟子たちに吹き込まれた聖霊の風は、この詩編に語られる主の創造の業として思い起こされ、教会の中で読み継がれてきたのだ。「息」「風」「聖霊」——これらはすべて、同じギリシャ語「プネウマ」に由来する言葉である。

創造のはじめ、神は土の塵に息を吹き込み命を与えられた。そして、主の十字架と復活、昇天の後、イエスの母や兄弟たちと共に身を寄せ合い、密かに隠れて

いた弟子たちに、神は新しい命としての聖霊の息を吹き込まれたのである。

ユダの裏切りと、その最期の悲惨な死が「エルサレムに住むすべての人に知れ渡」った(使徒1:19)中、弟子たちはきつと、恐れや疑念に打ち震えていたことだろう。実際、「聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土で、また地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(使徒1:8)という大宣教命令を受けたにもかかわらず、彼らは天に昇る主を、ただぼんやりと見つめるだけであつた。

あの荒野で救い主の誕生の知らせを聞き、「さあ、ベツレヘムに行こう」(ルカ2:15)と立ち上がった羊

飼いたちとは対照的に、弟子たちはただ天を見上げるのみであつた。まるで正気を失ったようなその姿は、まさに創造以前の「地の塵」にすぎない者たちのようであつた。「生きているとは名ばかりで、実は死んでいる」(黙示録3:1)——そんな彼らに、しかし、突然聖霊の風が吹いた。

そして彼らは、まるで別

主は月を造って季節を定められた。
太陽は沈む時を知っている。

詩編104:19

主幹牧師 榎本 恵

人のように変えられ、聖霊が語らせるままに大胆に語り出した。それを聞いた人々は「あつけにとられ」(使徒2:7)、「驚き怪しみ」(2:8)、「とまどう」(2:12)ほどであつた。彼らは、まさに新しい人とされたのだ。これこそが、ペンテコステの出来事である。

今も、私たちはこの命の息吹が吹き入れられる時、

聖霊の風の吹く時を待っている。しかしそれを、ただぼんやりと天を見上げて待つていてはならない。その時が確かに訪れることを信じ、希望をもって待ち望むのだ。

詩人はこう歌う。「主は月を造って季節を定められた。太陽は沈む時を知っている」(詩編104:19)。

月を造り、太陽をも創造された主は、季節と時をも定められる。それは一分の狂いもなく、正確に訪れる。たとえ私たちがそれをただぼんやりと見上げていようと、確実に月は昇り、日は沈み、また日は昇るのだ。

友よ、あなたは今日も、ただ漫然と天を見上げてはいないか。「あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたが見たのと同じ有様で、またおいでになる」(使徒1:11)。その時を信じ、聖霊の風の吹く時を、命の息が吹き入れられるその瞬間を、信じて共に待とう。

活きた信仰を求めて(2)

(「いろいろば牧師 榎本保郎を語る」より)
保郎師召天 35周年記念出版(日本キリスト教団出版局)

東後 勝明

そのためには、アシラムでは、特有の聖書の「読み方」と「祈り方」をするようです。

聖書は「読む」のではなく、聖書に「聴く」ことを大切にしていきます。誰かのために書かれた聖書を、読んだり、調べたり、比べたり、解釈したりするのに留まらず、神がこの私宛てに書かれた、いわば私への私信(今ならメール)として読む。

さらに神がこの私に話しかけてくださっている御声として「聴く」。こういう姿勢で、聖書に聴き続けると、その時、詩文に必要な御言葉が示されるのです。

そして、その御言葉

は祈りへと繋がり、祈りに力がついているように実感しました。

祈るときも、自分に語られた聖書のメッセージを聴き、その御言葉を祈りの核として祈り続け、さらには取りなしの祈りへと広がっていきます。

こうすることによって、御言葉への信頼と確信こそが祈りを強めるといふことになりまます。祈りがなんとなく空虚に感じる時、示された御言葉に立ち返ることによって力を取り戻すことができます。

ここに御言葉と祈りの相互補完的な関係があり、それが密室の祈りを支えているのではないかと思いました。

先生はこの聴き従うこと、つまり「聴従」の重要性をことある毎

に力説され、キリスト教の祈りは「しもべ聴く、主よ、語り給え」(サムエル記上3・9)であり、決して「しもべ語る、主よ、聴き給え」ではないと随所で言われています。

アシラムはその実践の場に他ならないことを体験させていただきました。先生の姿は私達の肉の目には見えませんが、アシラムを通して、そしてまた日々の礼拝を通して、聖霊の導きと共に、今も働いておられると確信しています。

この信仰の灯を絶やすことなく、信仰の歩みが続けたいとの思いを一層強くした対談でした。この時を感謝します。(完)

早稲田大名誉教授。NHKラジオ「英語会話」講師。

朝ドラ「カムカム」声出

演。2019年百天。80歳。



ブラジル・ルージラモス教会

アシラムに参加して

小杉 邦子

今年も第41回、教会アシラムが去年と同じ場所、エンブーダスアルテス市(聖徒パウロの家)でカーニバル中行われました。

聖書箇所はヨハネ13・15・21章で(弟子たちへの最後の親密なみ言葉)でした。参加者は赤ちゃんを含めて90名でした。

今回は9名の日本人が家族になり、聖霊様がみ言葉を一人一人に語ってくださいました。15章では、イエス様はあなたが私を選んだのではない、私があなたを選んだのだと言っていたとき、非常にうれしく感動しました。

私はまことのブドウの木、御父は農夫です、あなたがたはイエス様



第1回 三重・愛農アッシュラム ―多声なファミリ―

市橋 恵子

愛農学園でのアッシュラムというプログラムに魅かれて、第1回の愛農アッシュラムに参加しました。

京都から愛農学園までの列車の窓から見える山里の木々の新芽や

(ルージ・ラモス・アライアス・キリスト宣教教会)



昨年2月、ブラジルにて大変お世話になりました。
徳植英雄姉ご夫妻宅で、日本料理のおもてなし！

花々に春の訪れを感じつつも、風は肌寒いなか到着すれば、学園の方が会場を薪ストーブで暖かくして、私たちを待ってくださっていました。

私のファミリーは、なんと20代から70代ま

でそれぞれの世代で構成されており、しかも台湾から、ブラジルから、そして日本人であってもヨーロッパやアメリカでの生活経験をもつ人々による多様なメンバー構成でした。

というわけで、使用言語は英語(母語とする人はだれもいませんが)、ともに聴く聖書のテキストは雅歌、ちなみに英語表記では雅歌は「Song of Songs」というのだと知りました。

それにしても、繰り返される愛の歌は日本でいえば万葉集の相聞歌のようなものか？なんて思いをぐるぐる巡らせながら、ひとりみ

言葉に聴き、そして互いの思いを分かち合いました。

人生の来し方や、置かれた状況は異なっている私たちですが、皆さんとの対話を通して、さらに神様の愛の広さ、深さを味わいました。

私は「愛は死のように強く」雅歌8:6という言葉が心に響きました。

味わうといえば、愛農学園の皆様方にふるまっていたいただいたランチの美味しかったこと。

滋味深いお肉や新鮮な野菜、美味しいお米、とびつきりのぬか漬

け。愛にあふれていました。

準備のときから最後まで労して下さった皆様に、そして私たちを導いて下さった榎本先生に感謝します。(早天祈祷会ズーム参加)「シメオン黙想の家」の清掃管理のご奉仕)



2017年10月榎本てるこ師の55歳記念バザールカフェにて。市橋姉はてるこ師の専属ナース兼SP!!(翌4月でてるこ師召天)



第1回 三重・愛農アッシュラム in 愛農学園農業高等学校。薪ストーブのロτζで心も暖かに。お世話下さった愛農関係の参加者の皆様に感謝です！

2025年主幹牧師のビジョン(2)

～アシュラムセンター開設50年を迎えて～

神ならざるものを神とする、それが旧新約聖書を通じ、そしてまた今に至るまで続く信仰者の戦いの歴史でした。宗教改革を経験したドイツのプロテスタント教会もまた、それから100年ほどし、信仰が形骸化し、礼拝は命を失ったものとなってしまいました。

そのような中で、生まれたのがドイツ敬虔派と言われる人々でした。中でもその創始者であり、代表的指導者の、フィリップ・ヤーコブ・シュペーナー、当時のルター派教会で行われていた礼拝や牧会について「特別に一人一人に対してなされるべき魂への配慮が、本来要求していることを、これらの人々にしてあげることは全くできないままなのです」と嘆き、「このような仕方でするくらいなら、私的告解とか赦しなど無くしたほうがましである」とまでいうのです(C・メラー『魂への配慮の歴史7』より)。

このことは今日の日本の教会、そして教派教団にとっても、言えることなのではないでしょうか。クリスチャンブームの起こった敗戦後から80年、明治期に禁教の高札が下ろされてから150年余り、そして、イエズス会によるカトリック宣教から500年近くになる我が国のキリスト教の在り方・在りようは、果たして今どうなっているのでしょうか。それは、形骸化し、命を失ったものとなってはいないでしょうか。

牧師も、信徒も、すべからず教会の危機を叫んでいます。けれども、もし教会が、ただその

人数や献金の多寡だけを問題にするならば、それは本当の危機ではないと思うのです。

また、これは神から出たものであるから、決して滅びることなどないと思(うそぶ)いているとするならば、この神殿を三日で建て直すと言われる方は、直ちに、私たちを滅ぼされるに違いありません。

では、私たちはどうすれば良いのでしょうか。私は、そのヒントが、シュペーナーたち敬虔主義の運動にあると思うのです。「教区教会での通常の礼拝以外にグループで集まった『敬虔集会(コレギウム・ピエタティス)』(として知られる小グループ)が作られ、「彼らが家庭で集まったのは、祈り、聖書を読む(しかし道徳的・教理的関心よりもむしろ信心的配慮をもつ)ためであり、相互の霊的指導をするため」(P・ドレイク『キリスト教霊性の歴史』より)の場所が作られたのです。(続く)



ファミリーで祈り合う時。今年の年頭アシュラムにて。

甲西伝道所・アベル門宣教師 2回目の説教後の感謝のお祈り

天の父なる神様

アベル門先生から始めの過越祭について詳しく解き明かしていただきました。ありがとうございました。

傷のない、罪のない子羊が、今ではイエス様がその犠牲となって、私たちの罪のためにカルバリへと向かう最後の週になりました。

どうぞ神様、今日から始まるレントの最後の週間を、日々自分の罪を思い、その救いを思い、過ごすことができますように。

私たちが次のイエス様の喜びに出会うまでに、イエス様の、神様の大きな犠牲があったことを思い、それがなんのためかもう一度今日の説教を思い出しながら考え、過ごすことができますように。

この小さき祈りをイエス様の御名によってお捧げいたします。

アーメン

佐賀昭子(かつて今治幼勤務。恵師の恩師!)



←アベル門宣教師、甲西伝道所での説教デビュー! 4月より月一回、恵師やるつこ姉に、原稿や読み方指導受け、頑張りました! 神様のおかげですと。



←台湾の皆様、一週間、滞在されました! まず、二日間にはアシュラム、ラビリンスも。後半は、観光、桜の季節、良きお交わりの時を感謝!!

みもとに…



向井螢治兄 召天日 1/29 86歳



写真左。日光オーリーブの里アシラム(2017年)でのひととき。黄金井姉、浩子夫人、恵師と。喜んで家長さんの任を受けてくださった。

武曾晴美姉 召天日 2/22 102歳



お嬢様より、ご丁寧に「母は、平安のうちに召天いたしました。和子母と長い間交流していたかもしれません。天上の友を憶える日の礼拝に加えていただきましたら幸いです。」と連絡あり、感謝。

杉山武文兄 召天日 3/6 80歳



沖縄平和巡礼の旅2019。武文兄ミユキ姉ご夫妻でご参加。歴史や文化等、深く味わっておられた様子。センターの働きを覚えお支え続けて下さった。

いえじま 雑記 23 一人静かに?!



先日、百々子と子どもたちが岐阜に帰省することになり、数日間伊江島で一人で過ごしていました。春休み中は、長女の同級生が毎日のように遊びにきていましたが、当然彼女がいなければ誰も家のベルを鳴らす人はいません。長女の人望と、僕の友達の少なさをあらためて再確認した次第です。

さて、すっかり静まり返った家にぼつり取り残されては、小鬼たちのいぬまに片付けてやろうと思っていた仕事もありはかどらず、なんだかダラダラと過ごしてしまいます。うたた寝したり、最近伊江島にできたラーメン屋さんに行ってみたり、これではいけないと思って家の掃除をちょっとしてみたり、娘たちの靴を洗ったり。四人が帰ってくるのを、薄暗い家の中で指折り数えていました。

そうして帰ってきたかと思えば、あっというまに長女は二年生。下の二人は、幼稚園や保育園に行ったり行かなかったり。それぞれに自分らしく、のびのびといられる場所を探しています。

春になりました。新刊の関係でトークイベントなどございますので、ぜひお越しください。

榎本 空(ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)



春のランチ会。みんなのカフェちいば大山謙一シェフ、悠子母により。アンナ祈りの家にて。何と幸いな時!



山岡三治司祭が、ご来幡。何と、ラビリンスを歩くために! 聖書教室のご奉仕も!



ブラジルからシメオン宿泊中の安井トシ師、弘子姉ご夫妻共に、カフェちいば聖書入門講座に。アベル門宣教師の恩師。

あとがき

三重・愛農学園での一日アシラムが行われた。アシラムセンター50周年記念の年に、新たに始まったアシラムであったが、30名の参加者があり、大変祝福されたアシラムとなった。

愛農学園のご好意で、お昼には、学校で育てた豚の肉を、野菜を米をバーベキューで豪快にいただいた。「神を愛し、人を愛し、土を愛する」。この3愛精神を掲げ、終戦直後より、80年微動だにせず、唯一の私立農業高校として続けてこられたこの場所を会場にし、今、この国の根幹をなす「農業」が危機を迎える中で、それに立ち向かっていく愛農の方々から、教えられることは多い。

「汝の農場をもって神の栄光を表せ」学校創設者小谷純一先生の言葉だ。私たちアシラム運動も、それぞれの場を用いて、主の栄光を表すことを、思う。キリスト教の危機が叫ばれている中で、私たちはしっかりと与えられた農場に鎌を入れ、種をまき、水をやろう。育ててくださるのは神である。(恵)



「武文兄からのお言葉より」2021年の秋以来、三年余に渡る闘病生活では、医療関係者や友人・知人、また家族に支えられました。心から感謝致します。長い人生を楽しく生き抜くことができ良かったです。お世話になりました。



中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080-3983-8140

5月の聖書教室など

12(月)	福岡聖書教室（博多クリオコートホテル PM1:30）
20(火)	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター AM10:30）
21(水)	みんなのカフェいちいば聖書入門講座（京都 PM1:30） 6月は休み！
23(金)	センター聖書教室（アシュラムセンター AM11:00）
25(日)	ちいしば牧師記念チャペルタ礼拝（PM5:00）
26(月)	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
27(火)	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30）
27(火)	しみじみする会（桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30）
6/6(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）

5月のアシュラムなど

1(休) 3(土)	修道場アシュラム 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
4(日) 5(月)	修道場（ユース）アシュラム 奉仕者 櫻本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
18(日)	呉教会アシュラム 奉仕者 櫻本 恵師	0823-21-8571 政所邦明師・山下和彦兄
31(土)	第22回 愛知一日アシュラム 奉仕者 黒田 朔師	052-721-0045 仙敷正俊師

6月のアシュラムなど

19(木) 22(日)	沖縄平和巡礼の旅 沖縄戦80周年記念	受付終了！ 0748-33-4030 アシュラムセンター
19(木)	PM6時 沖縄聖書教室 （日基首里教会）	沖縄の皆様、ご参加 お待ちしております！
21(土)	第24回 新潟一日アシュラム 奉仕者 大島 庄吾師	080-6755-1208 吉澤昭男師

7月以降のアシュラム予定

7月21(月・祝)	第28回 福岡一日アシュラム（日基福岡中部教会）
7月26(土)	第6回 四国一日アシュラム（日基三島真光教会）
8月8(金)～9(土)	第1回 こどもアシュラム（ちいしば広場）
9月19(金)～20(土)	第48回 新潟アシュラム
9月24(水)～25(木)	第13回 日光オリーブの里アシュラム
9月27(土)	第50回 南町田一日アシュラム
11月3(日)～5(火)	第50回 京浜アシュラム
11月24(日)～26(火)	アシュラムセンター創立50周年記念 第20回 国際正義・平和アシュラム in 近江八幡
2026年1月12(日)～14(火)	第51回 年頭アシュラム

みことば



日本キリスト教団 豊島岡教会
南花島集会所 牧師 江口公一

2章「救いの道をたどる者にとっても、滅びの道をたどる者にとっても、わたしたちはキリストによって神に献げられる良い香りです。」（Ⅱコリント2：15）

コリント教会には、パウロがⅠコリント書3：3で指摘した「お互いの間にねたみや争いが絶えない」状況がまだ続いていた様に思います。コリント教会の土台を据えたパウロの使徒職に関する正統性を疑う人々もいました。

14節でパウロは「神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます。」と書きました。人ではなく神を主語にして、神がパウロ（とテモテ）をキリスト宣教に遣わされたのだと述べて、その権威が神から来る事を明確にします。そして、パウロ達を、十字架につけられたキリストの行進に連ならせ、苦難の中で、いつも、至る所で、十字架のキリストの福音という知識の香りを伝えさせているのです。

掲題の15節の「良い香り」は、罪を贖う儀式として犠牲（の家畜）を燃やして神に献げる「宥めの香り」（レビ1：4～9、4：31等）に由来します。従って、15節は、十字架につけられたキリストは、人の罪を贖うために神に捧げられた「贖罪の犠牲」であり、その行進に連なるパウロ達は、それを伝える「良い香り」であると言っています。そこに私達に対する神の愛が示されており、それは私達の罪の赦しのためでした。

私達は、キリストの福音の香ばしさを宣べ伝えるよりも、悪を告発する事に熱心になりがちです。しかし、神は人間の罪を暴露するためではなく、福音の香ばしさを広めるために、ご自分の僕をお用いになります。だから、パウロ達はコリントの信徒に、罪人を「赦し」、「愛するように」と勧めます。（7～8）それはキリストのゆえにコリントの信徒もパウロ達も実行できるはずで（9～11）その時「救いの道をたどる者にとっても、滅びの道をたどる者にとっても、わたしたちはキリストによって神に献げられる良い香り」となるのです。これは、コリント教会がキリストという土台の上に一つとなるための和解の言葉だと思います。



「早天祈禱会での祈り（しみじみする会 翌朝）」「感動することの大切さを、各地の聖書教室にて教えられました。あなた自らの聖霊によって書かれたこのみことばを、聖霊をもって聴く者となれますように。」 恵 黙 15

主と畏れることは知恵の初め。
聖なる方を知ることは分別の初め。
創り主を知ることは一番大事です。
知子 箴言九章一節